

New Edition Birdland オーラル I all English で行う Oral Communication の授業



神奈川県立湘南高等学校 武田 素行

1. はじめに

私が神奈川県立湘南高等学校に赴任して今年で6年が経過した。生徒たちはほぼ100%大学進学を目指している学校である。1年生のはじめから生徒たちは大学進学を意識している。しかしながら学校行事や、部活動にも盛んに参加している。授業時間は70分で1日4～5時限。5時限目が終わるのは4:00になる。これを2週で1サイクルまわしている。すなわち10日で1周する時間割である。

そのような環境の中で Oral Communication I においては文英堂 *Birdland I* を使用し、昨年は1年生対象にこの授業を行った。私が前回1年生を担当したのは4年前で、当時も現在同様 *Birdland I* (改訂前のもの) を使用していた。当時の印象は class activity がしやすく、話題も豊富でとても使いやすい教科書であるというものだった。70分という時間を40人の生徒対象に行うのは難しそうに思えるが、*Birdland* を使用して行くと、生徒も飽きることなく、当時は all English で活動を行っていた。不満点は、各 Lesson の導入部分が少し易しすぎる点だったが、現在使用している *New Edition Birdland I* はその問題点が修正され、導入部からしっかりと内容のあるものになっている。

昨年度の1年生に対しては以前とはやり方を変えて教科書を利用した。1年生の英語は2週で7コマある。時間割上はそれを英語 I に5コマ、Oral Communication I に2コマと割り振ってある。それぞれ70分単位で行ってもよかったが、70分を、前半約20分を Oral Communication I、後半約50分を英語 I として1授業時間内で様々な activity を行い、生徒がより集中力を持続できるように工夫した。CD を使った listening 中心の授業を70分間行うのは生徒にはかなり厳しいものであり、20分間で集中的に Oral Communication を行うのは効率的ではなかった。しかしながら十分な時間を使って、group activity や pair work をする時間がなかなかうまくとれなかったのも事実である。group work においては procedure をしっかり説明してから行う必要があるし、pair work においても実際の活動を行う前に、何

人かの生徒にモデルになってもらうこともある。20分ではまったく足りないので時間を延ばさざるを得ず、後半の英語 I の時間が削られてしまったこともあった。兼ね合いが難しいと思った。

よかった点は *Birdland* がいくつかのステップに分かれていることであり、だいたい1ページ進むのにちょうど20分くらいということで、5～6時限で1 Lesson が終わるというペースで1年間進んできた。私個人的には英語の授業は70分で行うよりは50分くらいで行い、そのかわり授業のコマ数を増やし、毎日英語に触れさせる機会を作るべきだと思っている。しかし70分授業の長い伝統はなかなか変わりそうもないので、このように時間を区切っていく方法も対応策の1つなのである。

2. Birdland I を使った授業

A. Birdland I の構成

まず、実際に行った授業を振り返る前に、以下に *Birdland I* の内容についてまとめてみる。Lesson は12課まであり、それぞれ6つのセクション(各1ページ)で成り立っている。

- **Let's Begin:** Warm Up と簡単な Dialogue で構成されていて、その課のテーマを確認する。
- **Let's Learn:** その課で必要な語(句)を確認し、それらを用いて実際に会話をします。
- **Let's Compare:** 国や地域によって異なる習慣や文化について聞き取っていく。
- **Let's Try:** これがその課の大きな目標となる部分。例となる表現を聞き取り、それを参考に自ら表現活動を試みようというもの。コミュニケーション活動の非常に大事な部分となる。
- **Life Abroad:** 海外の様々な出来事、文化、習慣に関する説明を聞き、その課に関する理解を深める。これは文章も長く、語彙も難解なものが入っているので手応えがある。挿絵や写真が工夫されており、楽しく聞いて後で活発に情報交換がなされることが多い。特に各国の切手や、お札の紹介はデザインもカラフルで内容も興味深いものであった。

- **Listening Practice:** テスト形式でリスニング力を試すものである。

B. 授業例① — Lesson 2 School life

- **Let's Begin:** 絵を見て、どのクラスで何の授業が行われているか確認し、George の得意科目と不得意科目を聞き取るもの。e のクラスには教卓の上にトカゲらしきものがある。きっと Biology の授業なのであろう。“What are they studying in the classroom e?” 等と会話を発展できる。
- **Let's Learn:** model dialog を聞き取った後、ペアワークでお互いの favorite subject とその reason を教科書の表に書き取らせる。
- **Let's Compare:** 2つの題材を聞き取る。1つめは prom というアメリカの高校生の行事についてのもの。映画「25年目のキス」や「バックトゥーザフューチャー」等にも出てくる行事なので、映画の場面を見せても面白かったかもしれない。2つめは各国の高校生の学校行事を聞き取らせるものである。
- **Let's Try:** 活動には40分くらい必要なので2時間に分けて行ってもよかったが、分けずに行った。例として Junko が自らの思い出の行事について話しているものを聞き、event, time, participants, things she did, the reason why it is memorable, の5項目について英語で書き取らせる。例を参考に class activity に移る。次のような指示をした。
 1. Make nine groups of four or five.
 2. Talk about your most memorable school event in your group.
 3. Choose the most impressive one in your group.
 4. Make presentation about it in class.
- **Life Abroad:** ケニア、アメリカ、中国のスクールランチのとりかたや、メニューについて聞き取る。内容、語句ともに難しいので生徒たちはより集中力を高めて listening に取り組んでいた。とくにケニアの生徒の話は“Jambo”から始まり、実際のケニアの生徒が話しているように聞こえる。“maize”という食べ物があるという説明も興味深いものだった。

C. 授業例② — Lesson 7 Household chores

ここでのテーマは家事。高校生が家事に関してどの程度関心があるのか私としても興味深いものであるし、生徒同士も友達がどのように家事に参加している

のか知るよい機会になったと思われる。夫婦間の家事分担の様子や、国によってその割合の違いがあることなどを聞き取っていくことは、高校生にとっても有意義なものである。

- **Let's Learn: Vocabulary** で「あなたがしている家事の頻度に応じて得点を記入し、合計を出せ」という指示がある。iron your uniform / take out the garbage / go shopping for groceries など16項目に5 (usually) → 4 (often) → 3 (sometimes) → 2 (occasionally) → 1 (rarely) → 0 (never) と6段階の得点を記入し、合計を出す。終了後、クラスで手を挙げさせるなどクラス全体にお互いの家事の様子を理解させる。ちなみに私自身のポイントも発表した。29点である。Expression では Shin と Lisa の会話を参考に pair work を行った。始める前に1人に前に出してもらい、私とモデルの会話をします。“Do you do some household chores?” “What kind of household chores do you do?” “How long does it take?” “Do you like it? Why?” などお互いに質問し合う。これを参考にクラス全体で pair work をし、最後に “Did you get any interesting or impressive information from your partners? If so, tell us about it.” という形でクラスに発表させる。
- **Let's Compare:** デンマークに留学中の日本人高校生が共稼ぎの夫婦の家庭にステイし、家事の分担をし、責任感を得たという内容を聞かせるものと、日本を含めた7ヶ国の既婚男性の家事参加率の統計をグラフを見ながら聞き取るもの。どちらも生徒たちには興味深い内容であろう。
- **Let's Try:** 以下の2つの質問があった。
 1. How would you share household chores with your future partner or children? What percentage of chores would you be willing to do? Which chores would you like to do? Why?
 2. If you could buy a “household robot,” what would you like it to do? Why? What would you do with the spare time?
 私は次のような指示をした。“Choose the one question you would like to answer, and write your answer in your notebook. Share it with your group members. Choose the most impressive answer in your group and make presentation about it.” 生徒の答えには、“I would like to do all the household chores and want my future

husband work as much as he likes for me and our children.” や “I would like the robot to do many parts of chores and I would like to sleep a lot on Saturdays and Sundays.” などの答えがあり、寝不足の高校生の実態が現れていて興味深かった。

- ・ **Life Abroad:** 各国の独特の形状の家についての説明を A house made of mud や A portable house など珍しい写真を見ながら聞き取っていった。

3. まとめ

まとめとして Oral Communication においては listening と speaking が大きな比重を占めることは確かである。listening に関しては少し難易度の高いもののほうが生徒の集中力が高まるような印象を受けた。答えをチェックするときは script を配るが、ここでは reading の力も必要とされる。また script は発音の向上にもつながっているようである。speaking や conversation の力をつけるためにはとにかく文章を作って話さなければならない。そのためには、生徒が意見を述べやすい題材を教員側が見つけ出すことが必要不可欠である。Birdland I の教科書をそのまま使ってもよいが、学校の実情に応じて指示を工夫することが必要だろう。そして生徒が自信を持って答えられるよう、writing の指導も欠かせない。

Birdland I に関しては all English で授業を進められる教科書の1つであると思っている。Warm Up, Vocabulary Check, Pair Work, Group Work, Comprehension と順を追って構成されており、生徒の理解を促しやすい。今後はこの教科書を使ったような英語学習の形態が学校英語で取り入れられていく傾向にあるようだ。その学習を支えていくためには reading power と writing power の向上を図るようなプログラムも同時進行していかななくてはならないであろう。

